

路面標示用塗料 JIS K 5665 1種A(常温 水性)



グリーン購入法 特定調達品目・常温型水性路面標示材

鉛・クロムフリー

地球との共生がテーマです。

ハードラインア쿠ア#21 C-10

① VOC 80%削減 (CO₂換算約80%相当)

従来の溶剤型路面標示用塗料と比較して、塗料中の有機溶剤(揮発性有機化合物、VOC)を80%(CO₂換算)削減しました。また、地球環境の保全に貢献していきます。

② グリーン購入法 特定調達品目

水性路面標示用塗料は「揮発性有機化合物 (VOC) の含有量が5%以下」です。グリーン購入法 特定調達品目として、公共工事の「資材」の品目分類「塗料」、品目名「低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料」に選定されました。

③ 非危険物

非危険物のため引火の危険がなく貯蔵・運搬・保管上の問題がなくなりましたので安心して、安全に作業できます。

④ 高視認性

表面乾燥の調整によりガラスビーズが理想的な状態で固着しますので、長期間にわたり良好な夜間視認性を持続します。

オゾン層の破壊、地球の温暖化、酸性雨等、昨今の地球を取り巻く環境問題は、極めて大きな社会問題としてクローズアップされています。

VOC (Volatile Organic Compounds=揮発性有機化合物)は、光化学大気汚染の原因のひとつとして、アメリカやドイツでの規制法制化につづき、1991年には国連においてもVOCの排出量の低減化を目的とした「VOCによる広範囲の越境大気汚染にかかわる議定書」に日本を含む21カ国が調印しています。

弊社では、こうした時代の要求に的確に応じた「人と環境にやさしい製品づくり」をひとつの企業テーマとし、業界に先がけた研究開発により様々な分野の製品を、VOCの含有量が極めて少ない、エコロジカルな水性塗料へと段階的に転換しております。路面標示用塗料の水性化は地球規模からすると極めて小さなものかもしれませんが、こうした開発のひとつひとつの実用化によって、少しでも地球環境の保全に貢献できるものと確信しています。



一般道



施工状況

ATOM^{IX}

ハードラインアクア#21 C-10

用途

区画線(中央線・外側線)、道路標示(右側部分はみ出し通行禁止線・駐停車禁止標示等)、駐車区分線、空港(滑走路・誘導路等)

路面標示用塗料 JIS K 5665 1種A(常温 水性)

品質規格

試験項目	品質 (JIS K 5665 1種A)
容器の中の状態	かき混ぜたとき、堅い塊がなく、一樣になる
密度(23℃) g/cm ³	1.3以上
粘度 KU値	70~100
塗膜の外観	異常がない
低温造膜性(5℃)	塗膜形成に異常がない
低温安定性(-5℃)	変質しない
タイヤ付着性	タイヤに付着しない
隠蔽率 %	白 97以上 黄色 80以上
拡散反射率(白に限る) %	80以上
にじみ	白 にじみがない 黄色 にじみがない
耐摩耗性(100回転当たりの摩耗減量mg)	500以下
耐水性	異常がない
耐アルカリ性	異常がない
加熱残分(質量分率%)	60以上
ガラスビーズ付着性	塗膜にむらなく付着する
ガラスビーズ固着率 %	90以上
塗膜中の鉛の定量(黄色に限る)(質量分率%) ^{a)}	0.06以下
塗膜中のクロムの定量(黄色に限る)(質量分率%) ^{a)}	0.03以下
消防法の分類 ^{※1)}	非危険物
揮発性有機化合物含有量 % ^{※1)}	溶媒として揮発性有機化合物を5%(質量)以上含まず、水を使用するもの

※1) JIS K 5665 1種Aにはない試験項目です。a) 白については、鉛及びクロムの化合物を含有していないため、この試験は適用しない。

容量・色・荷姿

製品名	容量	荷姿	色
ハードラインアクア#21 C-10	14L	石油缶	白、鉛・クロムフリー黄
ハードラインアクア#21 C-10	160L	ドラム缶	白、鉛・クロムフリー黄

標準塗装仕様例

(ロス含む)

材料	仕様	15cm幅のライン1,000m当たり使用量
塗料		50L
ガラスビーズ		39kg

施工上の注意事項

- ① アスファルト面への施工について
舗設直後に塗装しますと、軽質油成分等により塗膜が汚れる可能性があります。2週間以上の交通開放期間を経て、軽質油成分等が消滅してから施工してください。
- ② コンクリート面への施工について
コンクリート舗装は、アルカリ分とコンクリートのレイタンス(コンクリート打設後に現れる浮遊物=あく)があるため、付着阻害を生じる場合がありますので、下記要領にて塗装してください。
 - コンクリート打設後、3週間以上の養生期間を置いてから塗装を行ってください。
 - 路面清掃を徹底してください。
 - 新設コンクリート舗装の場合は、#800TYプライマーまたは#800プライマーを使用してください。
- ③ 旧塗膜(1種・2種)上の塗装について
従来の路面標示用塗料(1種・2種)の旧塗膜上に、そのまま塗装しても問題なく付着します。但し旧塗膜が著しく劣化している場合は、旧塗膜を除去してから塗装を行ってください。
- ④ 旧塗膜(3種)上の塗装について
従来の路面標示用塗料(3種)の旧塗膜は、表層が劣化しているため、付着障害を生じる場合がありますので、下記のような塗装をしてください。
 - 旧塗膜が著しく劣化している場合には、塗膜除去してから塗装を行ってください。
 - 旧塗膜が健全な場合は、プライマーNo.1を塗布した後に塗装してください。
- ⑤ 当製品は水性対応のペイントマーカー車で施工します。配管内の防錆、防食のため配管の材質をステンレスとし、当製品に対応した水性対応のペイントマーカー車が必要となります。詳細につきましては弊社標準施工仕様書をご参照ください。
- ⑥ ペイントマーカー車で施工終了後に、皮張り防止用に水を添加しますと、スプレーパターン不良や乾燥不良になります。また、皮張り物がペイント中に洗んで、ポンプに詰まる可能性があります。ペイントタンクには、水を入れないでください。
- ⑦ ハンドマーカーの塗装について
ハンドマーカーでの施工は可能ですが、完全水性対応ではないので、保管中に配管内でゲル化・着色することがあります。使用後は、毎回洗浄を行ってください。
- ⑧ ローラー塗装について
希釈しないでご使用ください。やむを得ず希釈する場合には水で3%以内にお願います。また塗装用具の洗浄には水をご使用ください。
- ⑨ 低温(5℃以下)・高湿度(85%以上)では塗装しないでください。
- ⑩ 降雨直後等の濡れている路面には塗装しないでください。
- ⑪ 凍結路面、凍結防止剤散布面には塗装しないでください。
- ⑫ 路面、塗装面の泥、油等は除去してから塗装してください。
- ⑬ 塗料はよく攪拌してからご使用ください。
- ⑭ 厚塗りは乾燥を遅らせ、また逆に薄塗りは耐久性が劣る原因になりますので、適正塗布量で塗装してください。
- ⑮ 塗装後、短時間で降雨があると、塗膜が流出することがあります。天候には充分注意してください。
- ⑯ 重ね塗りになった場合、1回目の塗膜が未乾燥の段階で、2回目の塗装を行いますと、乾燥が大幅に遅くなる場合があります。1回目の塗膜が乾燥してから、2回目の塗装を行ってください。

取扱い上の注意事項

- ① 直射日光や降雨を受けない場所に保管してください。また冬期には-10℃以下での保管は避けてください。
- ② 容器から出すときは、こぼれないようにしてください。もしこぼれた場合には、砂等を散布したのち処理してください。
- ③ 取扱い中は、できるだけ皮膚にふれないようにし必要に応じ、保護手袋、前掛け等を着用してください。
- ④ 取扱い後は、手洗いおよびうがいを充分行ってください。
- ⑤ 作業衣等に付着した場合は、その汚れを良く落としてください。
- ⑥ 使用後の廃棄物・廃液についての処理方法は、弊社技術資料をご参照ください。
- ⑦ ハードラインアクア#21は、他の塗料とは混ざりません。混合はしないでください。

全般的注意

- ① 製品ご使用の際には、当販促物の他、製品本体記載の注意事項およびSDS(安全データシート)・施工仕様書をよくお読みください。
- ② 改良等のため、製品の中身、仕様、販促物の内容等は将来予告なしに変更する場合があります。
- ③ 当販促物に表示してあります塗り面積、仕様はあくまでも設計上の標準的な数値です。塗装の際の諸条件によって増減する場合があります。
- ④ 製品本体および当販促物に記載されている、定められた用途以外には使用しないでください。またご使用方法等につきましてご不明の点がございましたら、必ずご使用前に弊社にお問い合わせください。

アトミクス株式会社

■ 道路事業部 〒174-0041 東京都板橋区舟渡3-9-6 TEL(03)3969-1552(直通) FAX(03)3968-7300

■ 営業部 〒174-0041 東京都板橋区舟渡3-9-6 ☎(03)3969-1552(直通) FAX(03)3968-7300
■ 大阪支店 〒574-0053 大阪府大東市新田旭町2-22 ☎(072)872-3111 FAX(072)872-1222
■ 札幌営業所 〒001-0014 札幌市北区北十四条西1-2-5(三晃ビル403) ☎(011)738-6070 FAX(011)738-6071
■ 仙台営業所 〒982-0011 仙台市太白区長町6-8-7(ハイコートアイ1F) ☎(022)249-7371 FAX(022)249-7372
■ 新潟営業所 〒950-0982 新潟市中央区堀之内南2-19-14(相合ビル) ☎(025)244-8011 FAX(025)244-8012
■ 名古屋営業所 〒462-0043 名古屋市中区北4丁目1-9(北村ビル2F) ☎(052)914-3900 FAX(052)916-0892

■ 広島営業所 〒739-1734 広島市安佐北区口田1-8-17(小夫妻ビル) ☎(082)845-2202 FAX(082)845-2203
■ 福岡営業所 〒812-0963 福岡市博多区金の隈1-33-31 ☎(092)503-5200 FAX(092)503-5308
■ 久喜工場 〒346-0101 埼玉県久喜市島津町殿和沼6(久喜島津工業団地内) ☎(0480)85-7931 FAX(0480)85-3112
■ 岡山工場 〒708-1312 岡山県勝田郡奈義町柿502-11(岡山工業団地内) ☎(0868)36-7000 FAX(0868)36-7010
■ 加須工場 〒347-0017 埼玉県加須市南藤崎1-12-1(加須工業団地内) ☎(0480)65-1159 FAX(0480)65-7146
● 本 社 〒174-0041 東京都板橋区舟渡3-9-6 ☎(03)3969-3111(代表) FAX(03)3968-7300